

<遠足1年 しながわ水族館>

5月26日(金)、しながわ水族館へ遠足に行きました。当日は雨だったので、レインコートを着ての出発となりました。

しながわ水族館に着くと子供たちは、まず、東京湾の干潟を再現したコーナーで、水が噴き出す荒磯の様子を見て驚きました。先に進み、南の海の色とりどりの魚や、子供たちの背丈程もあるアマゾン魚、大きなサメ、ペンギン、クラゲなどを間近に見て嬉しそうにしていました。

お弁当の部屋が他校との入れ替えのため、限られた時間内での使用となりましたが、子供たちは場所を譲り合って上手に食べることができました。

昼食後は、班ごとに見たい水槽をじっくりと見ました。イルカが、水槽の窓に子供たちを覗くように近づいて来ると、子供たちはイルカとじっと見つめ合っていました。人気があったのは電気クラゲコーナーで、水槽の上にあるメーターが増えると「うわー。」と歓声が上がりました。

初めての班行動で少々心配していましたが、誰も迷子にならずに集合することができて、また少し成長した1年生でした。



<英語活動>

沓掛小学校では、第5・6学年の「外国語活動」で年間35時間の英語活動を実施しています。また、第3・4学年では、年間10時間、第1・2学年では、年間5時間の英語活動を行っています。

平成32年度より、小学校でも英語が教科化され、小学校5年生から週2時間、英語の学習が位置付けられます。すでに、杉並区では、『すぎなみ 外国語活動 レッスンプラン集』や『すぎなみ9年カリキュラム(外国語教育編)』を作成し、義務教育9年間を通した一貫性のある外国語教育を実施しています。

現在の小学校の外国語活動は、「話す」「聞く」という音声を中心です。これが、教科化となると、「聞く」「話す」の2技能を中心にした現在のコミュニケーション活動から、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく学習することが大切になります。

本校の英語活動は、担任とALT(Assistant Language Teacherの略。日本人教師を補佐し、生きた英語を子供たちに伝える英語を母語とする外国人)による授業と、担任と日本人サポーターによる授業があり、どの学年でも、ネイティブの外国人の先生方や英語に堪能な日本人サポーターの先生方と生きた英語に触れ、楽しく取り組んでいます。高学年では、英語劇やゲームを取り上げるなどの実践的な活動を通して、子供たちは様々な力を付け、それらの力が中学校で生きているようです。

平成32年度の本格実施に向けて、来年度からは移行措置として新たな時間や内容が導入されてきます。それに向けても、充実した外国語活動となるよう、サポーターの先生方と連携しながら進めていきたいと思ひます。